令和５年度　シラバス

社会福祉士養成通信課程（短期）

学校法人北杜学園

仙台医療福祉専門学校

目　　次

現代社会と福祉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

相談援助の理論と方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2

地域福祉の理論と方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4

相談援助演習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5

相談援助演習（面接授業）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　6

相談援助実習指導・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7

相談援助実習指導（面接授業）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　8

相談援助実習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　9

令和５年度　社会福祉士養成通信課程（短期）シラバス

科　目　名	授　業　担　当　者
現代社会と福祉	武山和弘
時　間　数	授　業　形　態
１８０　時間	通　　信
学習の時期	レポート課題の回数
令和５年５月～８月	２回
レポート課題の提出期限	添削の時期
１回目　令和５年６月末日 ２回目　令和５年８月末日	提出から３ヶ月以内

【授業の目的・ねらい】

１．現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。
２．福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解する。
３．福祉政策におけるニーズと資源について理解する。
４．福祉政策の課題について理解する。
５．福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む。）について理解する。
６．福祉政策と関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む。）の関係について理解する。
７．相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。

【授業内容の概要】

１．現代社会における福祉制度と福祉政策
２．福祉の原理をめぐる理論と哲学
３．福祉制度の発達過程
４．福祉政策におけるニーズと資源
５．福祉政策の課題
６．福祉政策の構成要素
７．福祉政策と関連政策
８．相談援助活動と福祉政策の関係

【使用テキスト・参考文献】	【認定の方法】
最新社会福祉士養成講座　第４巻　社会福祉の原理と政策（中央法規）	課題レポートにより評価する。

令和５年度　社会福祉士養成通信課程（短期）シラバス

科　目　名	授　業　担　当　者
相談援助の理論と方法	武山和弘
時　間　数	授　業　形　態
３６０　時間	通　　信
学習の時期	レポート課題の回数
令和５年５月～12 月	４回
レポート課題の提出期限	添削の時期
１回目　令和５年６月末日 ２回目　令和５年８月末日 3 回目　令和５年 10 月末日 ４回目　令和５年 12 月末日	提出から３ヶ月以内

【授業の目的・ねらい】

１．相談援助における人と環境との交互作用に関する理論について理解する。
２．相談援助の対象と様々な実践モデルについて理解する。
３．相談援助の過程とそれに係る知識と技術について理解する（介護保険法による介護予防サービス計画、居宅サービス計画や施設サービス計画及び障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（障害者総合支援法）によるサービス利用計画についての理解を含む。）
４．相談援助における事例分析の意義や方法について理解する。
５．相談援助の実際（権利擁護活動を含む。）について理解する。

【授業内容の概要】

１．人と環境の交互作用
２．相談援助の対象
３．様々な実践モデルとアプローチ
４．相談援助の過程
５．相談援助における援助関係
６．相談援助のための面接技術
７．ケースマネジメントとケアマネジメント
８．アウトリーチ
９．相談援助における社会資源の活用・調整・開発
１０．ネットワーキング（相談援助における多職種・多機関との連携を含む。）
１１．集団を活用した相談援助
１２．スーパービジョン

<table>
<tr><td colspan="2">１３．記録
１４．相談援助と個人情報の保護の意義と留意点
１５．相談援助における情報通信技術（ＩＴ）の活用
１６．事例分析
１７．相談援助の実際（権利擁護活動を含む。）</td></tr>
<tr><td>【使用テキスト・参考文献】
新社会福祉士養成講座　専門科目第６巻　ソーシャルワークの理論と方法（中央法規）</td><td>【認定の方法】
課題レポートにより評価する。</td></tr>
</table>

令和５年度　社会福祉士養成通信課程（短期）シラバス

<table>
<tr><td>科　目　名</td><td>授　業　担　当　者</td></tr>
<tr><td>地域福祉の理論と方法</td><td>武山和弘</td></tr>
<tr><td>時　間　数</td><td>授　業　形　態</td></tr>
<tr><td>１８０　時間</td><td>通　　信</td></tr>
<tr><td>学習の時期</td><td>レポート課題の回数</td></tr>
<tr><td>令和５年６月～９月</td><td>２回</td></tr>
<tr><td>レポート課題の提出期限</td><td>添削の時期</td></tr>
<tr><td>１回目　令和５年７月末日
２回目　令和５年９月末日</td><td>提出から３ヶ月以内</td></tr>
<tr><td colspan="2">【授業の目的・ねらい】
１．地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む。）について理解する。
２．地域福祉の主体と対象について理解する。
３．地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。
４．地域福祉におけるネットワーキング（多職種、多機関との連携を含む。）の意義と方法及びその実際について理解する。
５．地域福祉の推進方法（ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法、地域トータルケアシステムの構築方法、サービスの評価方法を含む。）について理解する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">【授業内容の概要】
１．地域福祉の基本的考え方
２．地域福祉の主体と対象
３．地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民
４．地域福祉の推進方法</td></tr>
<tr><td>【使用テキスト・参考文献】
新社会福祉士養成講座　第６巻　地域福祉と包括的支援体制（中央法規）</td><td>【認定の方法】
課題レポートにより評価する。</td></tr>
</table>

令和５年度　社会福祉士養成通信課程（短期）シラバス

<table>
<tr><th>科　目　名</th><th>授　業　担　当　者</th></tr>
<tr><td>相談援助演習</td><td>鈴木宏之、武山和弘</td></tr>
<tr><th>時　間　数</th><th>授　業　形　態</th></tr>
<tr><td>４０５　時間</td><td>通　　信</td></tr>
<tr><th>学習の時期</th><th>レポート課題の回数</th></tr>
<tr><td>令和５年５月～11 月</td><td>５回</td></tr>
<tr><th>レポート課題の提出期限</th><th>添削の時期</th></tr>
<tr><td>１回目　令和５年６月末日
２回目　令和５年７月末日
３回目　令和５年９月末日
４回目　令和５年 10 月末日
５回目　令和５年 11 月末日</td><td>提出から３ヶ月以内</td></tr>
<tr><td colspan="2">【授業の目的・ねらい】
総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備及び開発に係る相談援助事例を取り上げ、社会福祉士に求められる相談援助の知識とその方法（技術）について専門的援助技術として理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">【授業内容の概要】
１．自己覚知について
２．基本的コミュニケーション技術について
３．基本的な面接技術について
４．相談援助事例研究
・社会的排除について
・虐待（児童・高齢者）について
・低所得者について
・ホームレスについて
・権利擁護活動を含む危機的状況にある相談援助事例について
・ＤＶについて
５．地域福祉の基盤整備と開発に係る事例研究
・地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握について
・地域福祉計画について
・ネットワーキングについて
・社会資源の活用・調整・開発について
・サービスの評価について</td></tr>
<tr><td>【使用テキスト・参考文献】
最新社会福祉士養成講座　専門科目第 7 巻
ソーシャルワーク演習（中央法規）</td><td>【認定の方法】
課題レポートにより評価する。</td></tr>
</table>

令和５年度　社会福祉士養成通信課程（短期）シラバス

科　目　名	授　業　担　当　者
相談援助演習	鈴木宏之、武山和弘
時　間　数	授　業　形　態
４５　時間	面　　接
学習の時期	―
令和５年６月～11 月の間の５日間	―

【授業の目的・ねらい】

個別指導並びに集団指導を通して、具体的な相談援助場面を想定したロールプレイング等を中心とする演習形態を通じ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

【授業内容の概要】

１．課題別相談援助事例に対する相談援助場面及び相談援助課程を想定した実技指導を実施する。（社会的排除、虐待（高齢者・児童）、ＤＶ、低所得者、ホームレスに関して）

・インテークについて
・アセスメントについて
・プランニングについて
・支援の実施について
・モニタリング
・効果測定について
・終結とアフターケアについて
・アウトリーチについて
・チームアプローチ
・ネットワーキング
・社会資源の活用・調整・開発について

２．地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用し以下の事項に関して実技指導を実施する。

・地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握について
・地域福祉計画について
・ネットワーキングについて
・社会資源の活用・調整・開発について
・サービスの評価について

３．相談援助実習終了後、相談援助に係る知識と技術に関し個別体験を実践的な知識と技術として一般化し習得できるよう個別及び集団による実技指導を実施する。

【使用テキスト・参考文献】	【認定の方法】
最新社会福祉士養成講座　専門科目第 7 巻 ソーシャルワーク演習（中央法規）	出席並びに受講態度により評価する。

令和５年度　社会福祉士養成通信課程（短期）シラバス

<table>
<tr><th>科　目　名</th><th>授　業　担　当　者</th></tr>
<tr><td>相談援助実習指導</td><td>鈴木宏之</td></tr>
<tr><th>時　間　数</th><th>授　業　形　態</th></tr>
<tr><td>２４３　時間</td><td>通　　信</td></tr>
<tr><th>学習の時期</th><th>レポート課題の回数</th></tr>
<tr><td>令和４年５月～11 月</td><td>３回</td></tr>
<tr><th>レポート課題の提出期限</th><th>添削の時期</th></tr>
<tr><td>１回目　令和５年６月末日
２回目　令和５年７月末日
３回目　令和５年 11 月末日</td><td>提出から３ヶ月以内</td></tr>
<tr><td colspan="2">【授業の目的・ねらい】
１．相談援助実習の意義について理解する。
２．相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。
３．社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
４．具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる出来る能力を涵養する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">【授業内容の概要】
１．相談援助実習と相談援助実習指導における個別指導及び集団指導の意義について
２．利用者理解をはじめ実習分野、施設、事業者等に関する理解
３．実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する理解
４．現場体験学習及び見学実習について
５．実習先で求められる相談援助に関する知識と技術について
６．実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解
７．実習記録ノートへの記録内容及び記録方法に関する理解
８．実習生、実習担当教員、実習指導者の三者によるコンセンサスをもとにした実習計画の作成について
９．実習期間中の巡回指導について
１０．実習記録及び実習を踏まえた実習に関する課題と実習総括レポートの作成
１１．実習報告会について</td></tr>
<tr><td>【使用テキスト・参考文献】
最新社会福祉士養成講座　専門科目第８巻
ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習（中央法規）</td><td>【認定の方法】
課題レポートにより評価する。</td></tr>
</table>

令和５年度　社会福祉士養成通信課程（短期）シラバス

科　目　名	授　業　担　当　者
相談援助実習指導	鈴木宏之、武山和弘
時　間　数	授　業　形　態
２７　時間	面　　接
学習の時期	―
令和５年５月～12 月の間の３日間	―

【授業の目的・ねらい】

１．相談援助実習の意義について理解する。

２．相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。

３．社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。

４．具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる出来る能力を涵養する。

【授業内容の概要】

１．相談援助実習と相談援助実習指導における個別指導及び集団指導の意義について

２．利用者理解をはじめ実習分野、施設、事業者等に関する理解

３．実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する理解

４．現場体験学習及び見学実習について

５．実習先で求められる相談援助に関する知識と技術について

６．実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解

７．実習記録ノートへの記録内容及び記録方法に関する理解

８．実習生、実習担当教員、実習指導者の三者によるコンセンサスをもとにした実習計画の作成について

９．実習期間中の巡回指導について

１０．実習記録及び実習を踏まえた実習に関する課題と実習総括レポートの作成

１１．実習報告会について

【使用テキスト・参考文献】	【認定の方法】
最新社会福祉士養成講座　専門科目第８巻 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習（中央法規）	出席及び受講態度により評価する。

令和５年度　社会福祉士養成通信課程（短期）シラバス

科　目　名	授　業　担　当　者
相談援助実習	鈴木宏之、武山和弘
時　間　数	授　業　形　態
１８０　時間	実　　習
学習の時期	―
令和５年６月～令和６年１月の間の 23 日間	

【授業の目的・ねらい】

１．相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。

２．社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。

３．関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。

【授業内容の概要】

１．利用者やその関係者、施設・事業者・機関・団体等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成について

２．利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成について

３．利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成について

４．利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援（エンパワメントを含む。）とその評価について

５．多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際について

社会福祉士としての職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業などに関する規

６．定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解について

７．施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際について

８．当該実習先が地域社会の中の施設・事業者・機関・団体等であることへの働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解について

【使用テキスト・参考文献】	【認定の方法】
最新社会福祉士養成講座　専門科目第８巻 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習（中央法規）	実習指導者と実習担当教員間にて達成度合いに関する意見交換を実施、最終決定は実習指導者による評価とする。（評価資料として実習記録を参考にする。）